

# 少女と山遊び

みんみん屋

R-18



暑かった夏も境を過ぎ  
若干涼しくはなったが  
まだ秋には早い そんなある日

私は とある目的で  
早朝から自転車に乗り  
山道を走っていた



ん？

あれは…

そのトンネルが出来る前に  
使ってた旧道だろうか？

もしかしたら  
良い場所があるかも



ファイアーファイ



荒れた旧道を進むと  
草木に覆われた建物を  
見つけ 足を止めた



何の跡だろ？  
少し見てみようかな

ここは駐車スペースかな  
草がぼうぼうだけど

じゃあアレは  
トイレとか？



違った  
炊事場かな？  
という事は…

どうやらキャンプ場の  
跡地のようだ



炊事場から出て  
周囲を確認…

季節によつては  
山菜取りの人が  
結構来そうな場所だね

見渡す限りの  
大自然！

でも今の時期は  
誰も来ないだろうし

私の目的には  
うってつけだ

…っとその前に  
自転車を隠さないと





これでよし！

あとは…



覚悟を決めて

服を脱いで

一纏めに  
仕舞い込んだら

ヘアゴムを  
忘れてた

これで  
準備完了！

私の目的…それは  
産まれたままの姿で  
自然を満喫する事！





少し貫うね

ニ／＼

グッ

キュッ

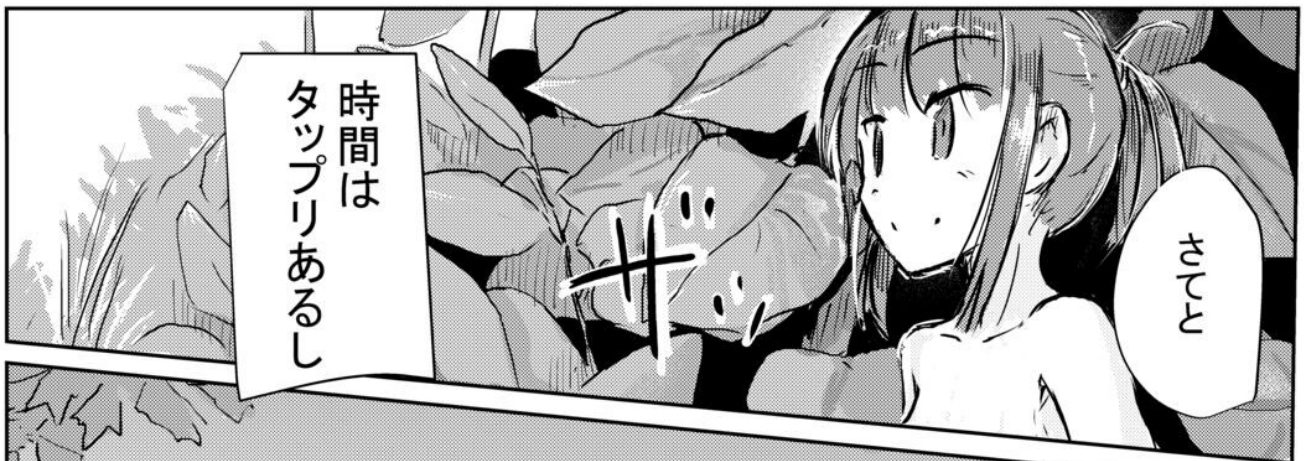
グッ

余分なものが無い  
有りのままの私

天然素材

ふっ





きゅん

時間は  
たっぷりあるし



お日様が  
昇ってきた

素肌で思う存分  
大自然を満喫しよう！





とは言ったものの  
何からしようか？

来る前は色々と  
考えてたんだけど…



ん？

看板がある



遊歩道か…



面白そうだし  
行ってみよう

どんな世界が  
広がっているのかな



まだギリギリ  
歩けそう

遊歩道は長年の放置で  
木々が鬱蒼と生い茂って  
まるで獣道のようなだ



薄暗い森を進むも  
私の心に恐怖は無い  
何故ならば…



裸で自然と触れ合うのが  
こんなにも爽快だなんて  
思わなかったからだ

ふふっ

このまま  
野生化しようか

つい楽し過ぎて  
森の奥深くまで  
入り込んでしまう程に

鳥さん虫さん  
こんにちわ!





見事な苔の上を  
恐る恐る  
踏みしめ歩いた

この空間に踏み込むのは  
心苦しい気がするけど  
誘惑には勝てず…

お邪魔します

ふかふかだ

ここで少し休憩  
しようか

岩へと腰を下ろすと  
苔がクッションのように  
私を優しく受け止めた

もさっ

サッ





これも森林浴  
っていうのかな？

ふと誰かに  
呼ばれた気がして  
視線を上に向けると

高々と聳え立つ木々が  
私を優しく見つめていた

お邪魔してます





様々な生物が  
調和する美しい世界

素敵だなあ

満ち溢れる自然の息吹に  
中てられたのだろうか  
言葉に言い表せない何かで  
胸が高まり…私は

ぬちゅ

うわ  
結構濡れてた…

性的な興奮を  
してしまったようだ





こんな素敵な  
場所で…  
いいのかな？

？

蝶々の  
カップルか

そうだね  
自然の中では  
それが当然なんだ

よし！

私も我慢する  
必要なって無いよね

そうと決まれば  
私も本能に従おう

森林に抱かれて  
オナニーだ

はあ

くちゅ、

はあ

ドキ

ドキ

緑の大地と  
一つになろう

否 これは  
大自然とのセックスだ！

ぬるっ

くちゅ、



大自然の息吹が  
私のナカへと流れ込む

まあ

おまんこが  
疼いて...

欲しい...

心と身体が  
貴方達を求めている

私は今この素敵な世界と  
セックスしているんだ



例えこれが

実を結ばない  
行為だとしても

皆と繋がる  
事が出来るだけで

多分きつと









この愛おしい  
大自然に…



幸せ…

余韻から醒め  
ふと辺りを伺うと

森の住民達の歌声が  
静まっている事に  
気がついた

私のあえぎ声に  
驚いたのだろうか

ビックリさせて  
ごめんね

微かな森の声に  
耳を傾けていると

何所からか  
水の音が響いていた

行ってみよう

よし







滑りそうだから  
気を付けないと…

四つん這いで  
いこうかな

ふふ

動物みたい



この際だ  
行ける所まで  
行ってみよう



裸で四つん這いとなり  
森の中を歩くと

全身で大自然を  
体感出来ることに  
気が付いた

気持ちいい…

本当の動物に  
なった気分

このまま動物になって  
過ごすのも悪くないよね

明るく  
なってきた

この先に何が  
あるんだろう？

茂みを抜けると

湧き水だ！

滾々と湧き出る水が  
泉となり日の光を反射し  
周囲を明るく照らしていた



岩で囲ってあるけど  
誰かが使ってたのかな？

綺麗だし  
飲めそう…

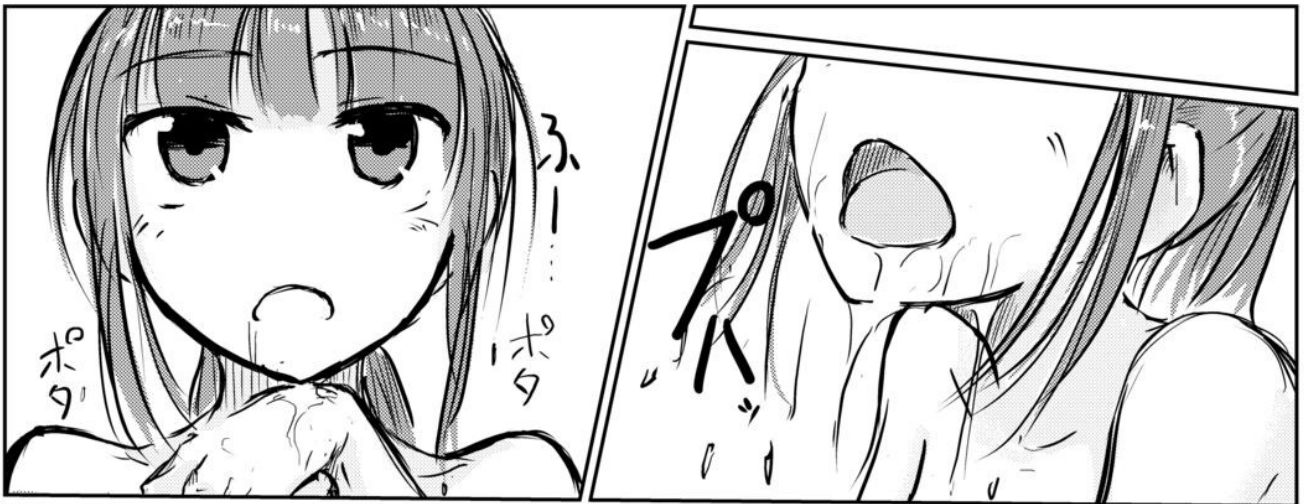
飲んじやお

どうせなら  
動物みたいに直接…

いただきます

おいしい…

際限なく  
飲めてしまう





私の身体に  
大自然が染み渡る…

幸せ…

このまま本当に  
住みたくなってきた…

ガッ

チャッ

私の身体に  
大自然が染み渡る…

幸せ…

このまま本当に  
住みたくなってきた…

ガッ

ちゃっ

ちゃっ

私の身体に  
大自然が染み渡る…

幸せ…

このまま本当に  
住みたくなってきた…

ガッ

チャッ



さて次は…  
何をしようか

ここでノンビリ…  
つてのも良いけど

ん？  
何だろアレ

ホース…  
だよな？

何処かに水を  
引いてるのかな？





ホース沿いに進むと  
道らしき痕跡があった

誰か住んで  
たりして…

人が居たら  
急いで戻ろう

お？

これは…  
池だろうか？

池にしては変わった  
形…棚田かな？

でも他の段は木が  
生い茂ってて…



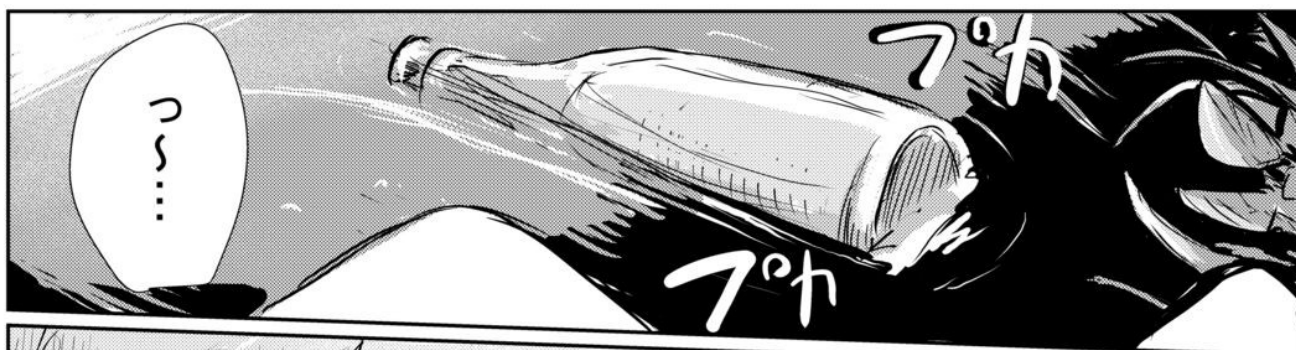
分かんないや

放棄されて  
水が溜まったのかな

多分水たまりだね  
浅いし…

!?









こんな山奥でケガなんて  
笑えないもんね...

泥が  
結構深い...

やっぱり  
田んぼかな?

凄いね

昔はこんな山奥にも  
田んぼがあったんだ

さーて 探検の続きだ  
あの先まで行ってみよう





はッ

ザッ

ボタ  
ボタ

はあ…

足が泥に  
はまって…

ザッ

ザッ

ボタ

ザッ

うう…  
ひどい目に  
あった…

全身泥だらけ  
だあ…

ザッ

ザッ

泥だらけ…だけど  
でも なんだか…

44

嫌な感じが  
まったくしない

はあ…

寧ろ嬉しいのかな…  
私も自然に  
近づいたみたいで…

このまま  
混ざりあえたら…

探検は  
一時中断して—

きっと  
気持ちいいよね…

ダラ…

ダラッ

ダラ

チャッ

チャッ  
チャッ

ホッ

ホッ

リッ  
ダラ



皆と  
混ざり合おう

ヌルヌルだ

泥まみれの  
身体を愛撫して

ダラッ

身体に大自然を  
擦り込んで…



皆と私の境界が  
無くなっていくんだ

もっと直接…

はー

あは 泥だらけの指…  
入れちゃった

はー

私のおマンコは  
もう皆のモノだよ

もう  
戻れないね…

ずいゅ

ぬるるるる

くちゅ

アッ

アッ

ポッ

チャッ

チャッ

ポッ

ポッ





そう決めたから

もう  
我慢しない

徹底的に  
混ぜり合おう

泥を沢山  
塗りたくって

全身に  
すり込んで…

身体の外も—

—ナカも…

泥んこいっぱい  
挿れちゃった…

泥まみれ

ナカで泥が愛液と混じり合い  
溶けて拡がり私を染める

もっと…欲しい  
もっと入れたい…

奥まで…  
染まりたい



空き瓶さんも  
私と繋がるう？

入るかな…

ポタ  
ポタ  
ド  
ポタ  
ポタ

太いけど…

ビンの底が  
おマンコを押し広げ  
私のナカへと侵入する…

入りそう…

は

ん

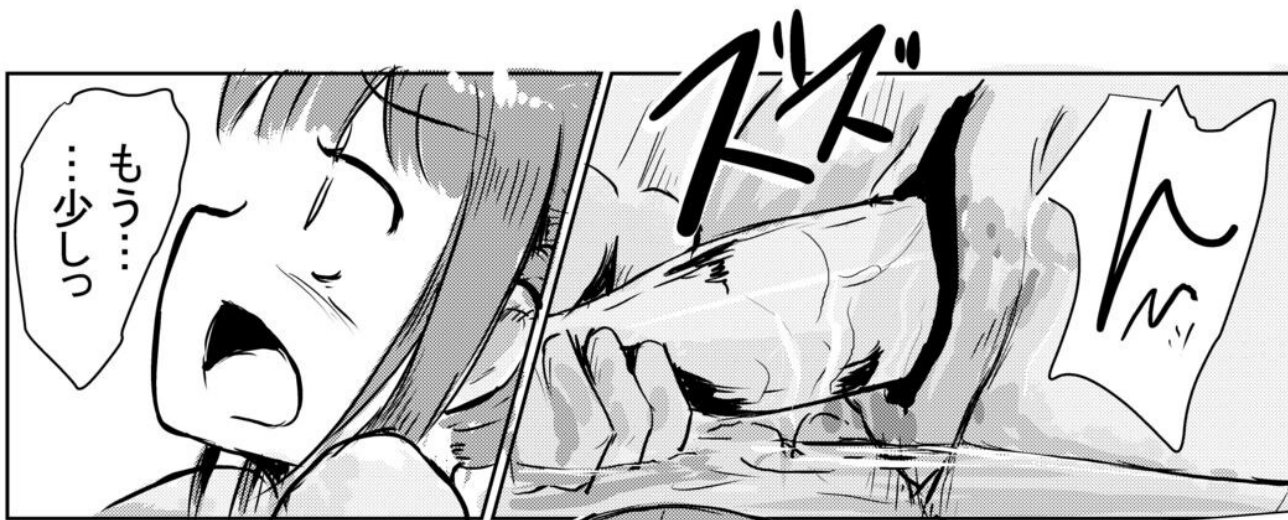
ド  
ド  
ッ

グ  
グ

チャ  
フ

チャ  
フ

グ  
グ





でも  
もっと欲しい…

もっと皆と  
交わりたい…

ビンをゆつくりと  
抜き差しすると

—ビンの動きに合わせて  
泥水がナ力で踊り始めた

気持ち良いけど  
これ…いいのかな

ぐあッ  
ぐあッ

でも…もう  
挿れちゃったし  
止めても同じ…

それにこんなに  
気持ちいいんだもん

悪いはずが  
無いよね

このまま身体の奥まで  
泥に染まって…



この大自然と  
繋がれたなら

バキッ

パキッ

もっと！

きつと…きつと素敵なはず！

バシッ

バシッ

きつと…きつと  
素敵なはず！



もっと私の奥に  
入って！

私のナカを  
いっぱいにしてー！

皆でジ

混ぜて



一緒に  
なろうッ

ビュッ







さて探検を  
再開しよ…って

うん

立ち上がると  
おマンコから  
泥水が垂れてきた

自分でやった事だけど  
ちよっと心配になってきた

使う相手なんて  
居ないけどさ…

さっきの泉まで戻って  
洗ったほうが良いかな？

でも  
このまま戻るの  
はなんか勿体ない…

そーいや あのホース  
何所まで伸びてるのかな

少しだけ…





棚田の端から奥を窺がうと  
作業小屋なのか家なのか  
朽ち果てた廃屋の屋根が見えた

そして探していた  
ホースの終着点も  
ここのようだ

もう誰も来てない  
感じだね

洗うのに  
丁度良さそう……

誰も使っていないし  
入っても良いよね？

お借りします

置いた人も偶に  
入ったりしたのかな

つめたっ

カッポ

ザバァァァ

あ…これは  
入らない…ッ

冷たい！

泉から引いた水は  
思っていたよりも  
冷たかった

ザバァァァ

カッポ





水槽に浸かりながら  
木々の緑を眺めていると  
身も心も洗われるようだ

慣れてきた

ふー

これでお湯なら  
最高ののに…

あ！

おまんこ洗うの  
忘れてた



さて 綺麗になったし  
次は何しようかな…

あそこの上まで  
行ってみるか

ん？

ユリかな？

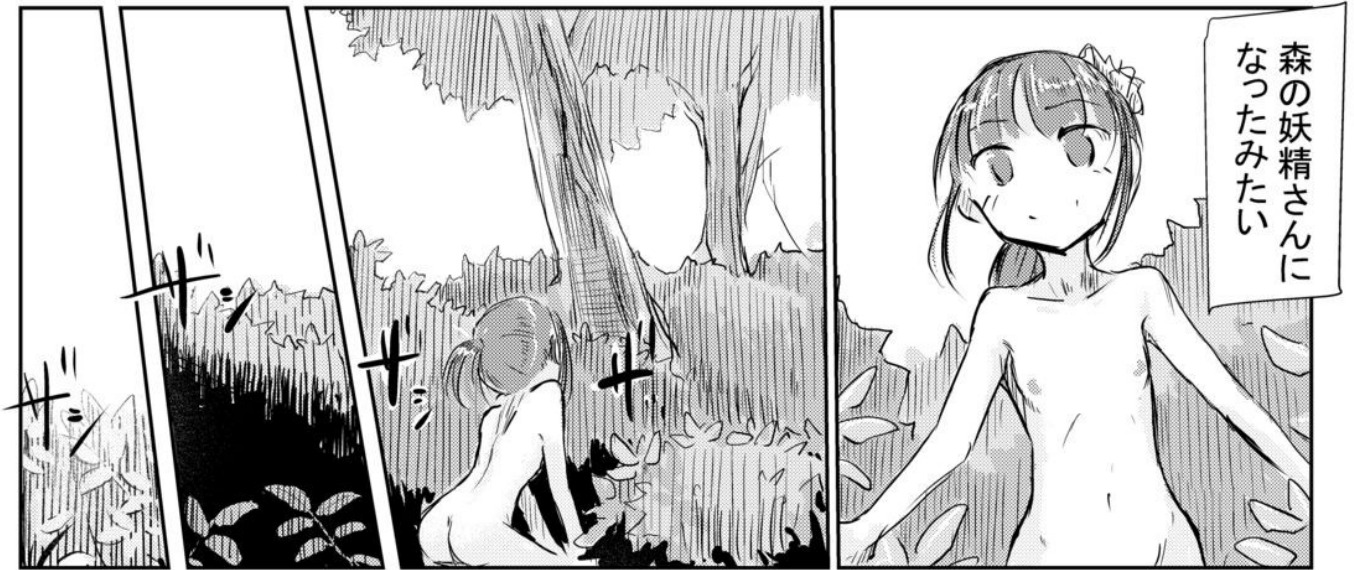
ザッ  
ザッ  
ザッ

ザッ

一輪  
くださいな

ふふ





ガシ  
もっと遠くまで  
見てみたいな

木登りは  
初めてだけど…

よっ…と

全裸で木に登る私は  
まるで野生動物だ

楽しい…

よいしょ…

登れた！

…っ

これで私も  
森の一員だ！







木の上からだ  
とさつきよりも  
周りがよく見えた

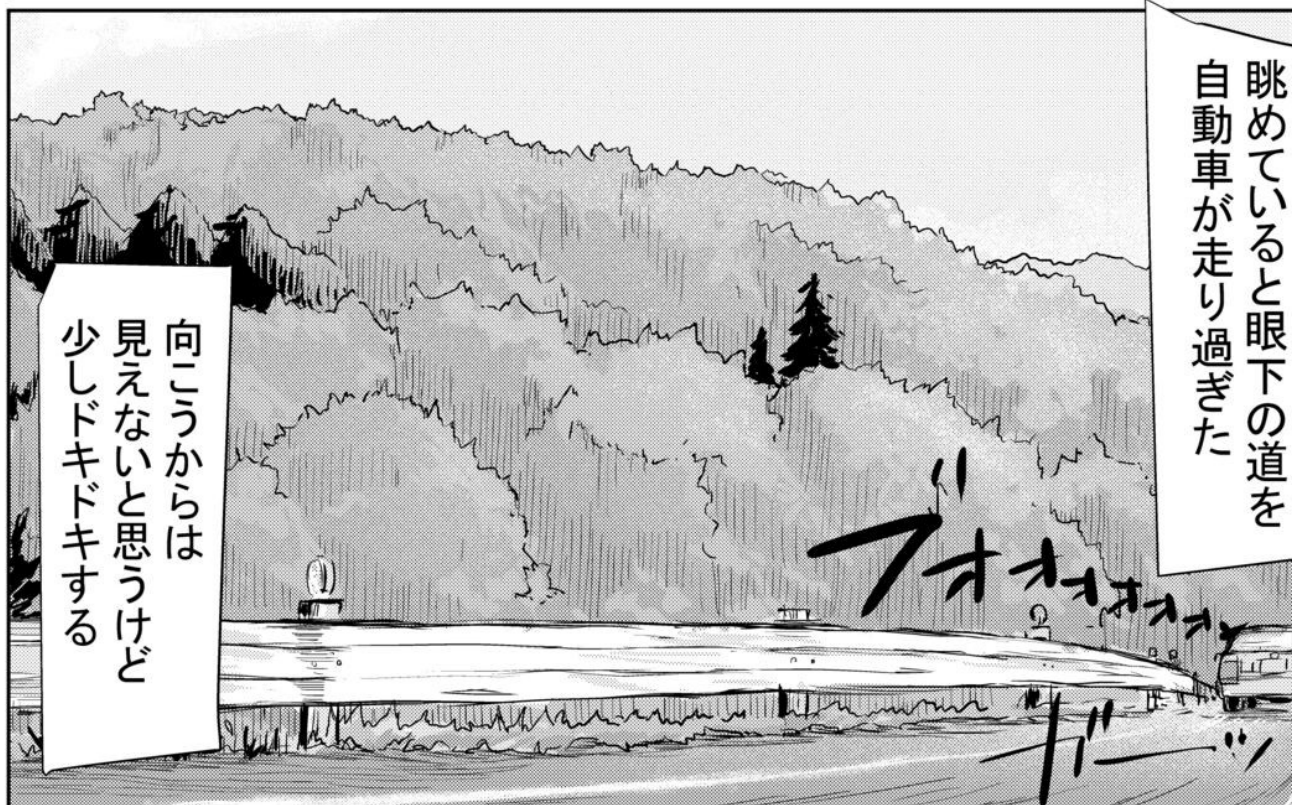
あ…下に  
道路がある！



途中にあった  
トンネルの出口かな？

大自然に浸り過ぎて  
とても久しぶりに感じる

眺めていると眼下の道を  
自動車が走り過ぎた



向こうからは  
見えないと思うけど  
少しドキドキする

まあ…こんな所で  
人が裸で遊んでるなんて  
普通は思わないよね

皆も自然に  
帰れば良いのに



こんなに自由で  
楽しいんだから



このまま  
ずっと…

ん





さあ 次は何をして  
遊ぼうかな

おわり

## あとがき

ご購入ありがとうございます。

(\*´ω`\*)お久しぶりです。はじめましての人は初めまして。

今回も 少女が一人裸になって遊ぶ  
少女シリーズをお送りいたしました。

みなさんは山の中で裸になった事がありますか？  
あの解放感と言ったらもう たまらないものがありましたよね。  
私の場合最近ヒグマが怖くて山に近づいてすらいませんが…

と 話が脱線いたしました但今回は女の子が山奥で  
自然に触れあい自然と交わるのを主題として作成いたしました。  
後半泥んこエロパートはやや好み被判れるかもしれませんが  
ページ数多めになったから許して☆(´ω`\*)vキャビ  
それではまた次回作で(´・ω・`)ノシ

令和3年11月16日 ろれる

発行・著作権者

ろれる

HP <http://roreru.sakura.ne.jp>

EM [roreru@roreru.sakura.ne.jp](mailto:roreru@roreru.sakura.ne.jp)

pixiv 3728017

twitter @roreroreya

DO NOT REPOST !

無断複製及び再配布、無断翻訳再配布を禁止します。

Fanbox <https://roreroreya.fanbox.cc/>

Fantia <https://fantia.jp/fanclubs/6278>

Ci-en <https://ci-en.dlsite.com/creator/539>